

原 著

問診票を用いた各種口臭症患者の特性についての解析

鈴木 奈央 米田 雅裕 内藤 徹 吉兼 透 岩元 知之 廣藤 卓雄

概要：福岡歯科大学では、口臭クリニック受診患者に対して初診時に自己記入式の口臭問診票を用い、口臭の診断と治療に役立っている。本研究では、これまでに得られた回答結果をまとめて臨床診断別に分類し、患者の自覚症状や生活習慣について検討した。その結果、仮性口臭症患者では、口臭を意識したきっかけが「自分で気づいた」である者が真性口臭症患者に比べて多く ($p < 0.05$)、また口臭を意識するために社会生活や対人関係に支障をきたしている傾向が認められた。口腔内自覚症状では、口腔由来病的口臭患者に歯肉出血や齲蝕などの歯科的項目に高い訴え率が認められ、仮性口臭患者では「痛い歯がある」や「変な味がする」など感覚的な訴えが特徴的に認められた。生活習慣に関する質問では、仮性口臭症患者に集中できる趣味をもたない者が多くみられ ($p < 0.05$)、また半数以上が口臭以外にも身近に悩みがあると回答した ($p < 0.05$)。さらに仮性口臭症では「あなたのまわりに口臭の強い人はいますか」という質問に対して「はい」と答えた者が真性口臭症よりも少なく ($p < 0.01$)、仮性口臭症患者には実際の口臭を知らない者も多いことが示唆された。今回口臭問診票の結果を検討したところ、臨床診断別に特徴のある回答が得られ、これらが患者情報の把握と口臭の診断や治療計画に役立つことが明らかになった。

索引用語：口臭、問診票、自覚症状、生活習慣